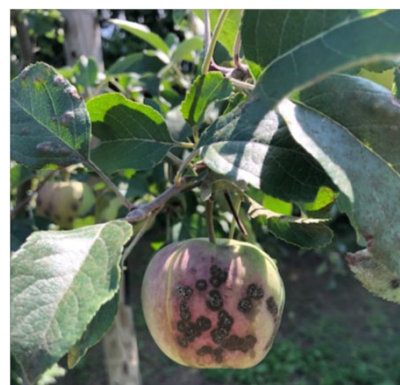


これからのリンゴ黒星病防除 ～薬剤耐性菌への対応～

概要 Abstract

- ・薬剤耐性菌の発生に苦慮する地域への対応策を示した。
- ・融雪後、落葉を粉砕すると子のう孢子飛散が抑制される。
- ・薬剤散布における重点防除時期は「展葉1週後から落花20日後」。



成果 Results

耕種的防除

早めに草刈りするだけ！
融雪2～3週後から展葉期までに
乗用芝刈機で落葉を粉砕する。

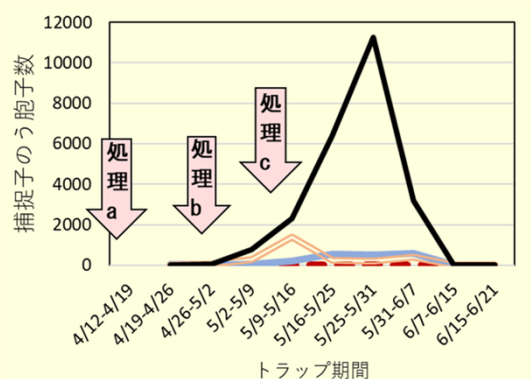


粉砕処理前

粉砕処理後



乗用芝刈機
落葉を粉砕できるなら
何でも良い



- 処理a: 4/15乗用芝刈機による粉砕
- 処理b: 5/2ハサミで2cm角に粉砕したモデル
- 処理c: 5/16ハサミで2cm角に粉砕したモデル
- 無処理

病原菌が潜む落葉を粉砕すると
落葉が乾燥し、子のう孢子が壊れる。
粉砕処理は早いほど効果が高い。

薬剤防除

展葉期前から子のう孢子は飛散開始し、
5月～6月中旬までは活発に飛散

**葉をきちんと守る目的で展葉1週後から
薬剤の効果が切れないように散布する。**

薬剤名	効果判定	耐性リスク
インピルフルキサム水和剤F	A	中～高
シプロジニル水和剤DF		
イブフルフェノキン水和剤F		
ピラジフルミド水和剤F	B	低
チウラム水和剤F		
マンゼブ水和剤		
キャプタン水和剤		
TPN水和剤DF		
フルオリミド水和剤DF	C	低
有機銅水和剤DF		

A: 2週間隔散布でも効果が高い。

B: 1週間隔散布で効果が高い。

C: 1週間隔散布で効果がやや劣る。

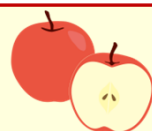
重点防除時期はAを中心にBを組み合わせる。
同じ剤を連用しない。

重点防除時期が終わったらBを中心に散布。
夏季、高温になったらCを使用する。

葉に病斑が発生すると分生子が飛散し
発病が拡大する。

普及 Dissemination

DMI剤及びQol剤に対する薬剤耐性菌が発生した地点での
リンゴ黒星病防除に活用できる。



連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
0123-89-2290
central-agri@hro.or.jp